

台風5号に対する農作物の技術対策

令和3年6月25日
技術支援課普及指導室

台風5号は6月23日15時現在、マリアナ諸島近海を北北西に進んでいます。
今後は少し発達しながら北上を続け、小笠原諸島付近を通過する26日(土)には暴風域を伴う見込みです。

また、台風とともに梅雨前線も北上する見込みです。台風が陸地から離れて通過した場合でも、梅雨前線の活動が活発になり、県内でも局地的に大雨と強風が予想されますので、農作物や農業施設の管理について対策を徹底しましょう。

1 共通事項

- (1) 事故防止の観点から、台風接近時のほ場見回りは避け、大雨や強風が収まってから行うこと。
- (2) 局地的な大雨が予想され、ほ場が冠水する恐れもあるので、速やかに排水ができるように備えること。これまで冠浸水したことのある地域については、前例を参考にし重点的な対応を図ること。
- (3) 河川及び用水の増水並びに土砂災害の恐れがあるところでは、作業の安全確保を第一としつつ、適切に対応すること。
- (4) 薬剤散布にあたっては、農薬ラベルに記載されている使用基準や注意事項を必ず守り、正しく使用すること。

2 水稻

- (1) 事前対策
 - ア 用排水路の点検・整備を行い、ほ場への土砂等の流入を防止する。
 - イ 風雨による影響を軽減させるため、台風接近前に湛水状態(深水)としておく。
 - ウ 育苗中の苗が冠水しないよう留意する。
- (2) 事後対策
 - ア 台風通過後は、風がやむまで湛水状態としておく。
 - イ 冠水したほ場は、速やかに排水するとともに、土砂が流入した場合も排出し、埋没した稲の回復を図る。
 - ウ 移植直後で被害が発生した場合は、状況に応じて植え直しを検討する。
 - エ 育苗中の苗に泥等が付着した場合は、早急に清水で洗い流す。

3 工芸作物

- (1) コンニャク
 - ア 事前対策
土砂の流出入防止のため、必要に応じて土のうなどを設置する。
 - イ 事後対策
 - (ア) 滞水、土砂の流入は、湿害や根腐病の発生を助長するため速やかに排水させる。
 - (イ) 作土が流失し、種いもや根が露出した場合は、早急に土寄せを行う。
- (2) タラノキ
 - ア 事前対策
土砂の流出入防止のために、必要に応じて土のうなどを設置する。

イ 事後対策

強風により倒伏した場合は、新梢が屈曲しないうちに出来るだけ早めに手直しする。

4 野菜

(1) 事前対策

ア 하우스の被覆資材などで傷んでいる箇所は、風雨が吹き込まないように修復しておく。また、ゆるんでいるマイカー線の張り直しや基礎の杭等の補強を行う。

イ 湿害の発生しやすいほ場では、周囲に排水溝を設け、速やかに排水できるようにしておく。また、ハウス内に雨水が流入しないように、土のう積み等の防水対策を図る。

ウ 露地野菜の支柱や誘引線、ほ場まわりの防風網はあらかじめ補強しておく。

エ 果菜類等で収穫期に達しているものは、やや早めに収穫し、被害を最小限に抑える。

(2) 事後対策

ア ハウス施設やほ場に浸水した場合は、早期に排水溝を掘り排水に努める。

イ ハウスや防風網を点検して、損傷箇所があれば早めに補修する。

ウ 茎葉の損傷は湿度の上昇により、病害の発生が助長されるので適用農薬を散布する。なお、農薬散布にあたっては使用基準、特に収穫前日数を必ず確認する。

エ 天候回復後、草勢回復のために追肥や葉面散布を行う。

オ 排水後、土壌表面が固くしまっているほ場では、土壌が乾燥して、ほ場に入ることが可能になったら、浅く中耕する。

カ 果菜類では、被害を受けた果実を摘果し、着果負担を軽くさせて草勢回復を図る。

キ 露地ナスなどの倒伏した果菜類の株は可能な限り起こすとともに、支柱等へ誘引を行う。またネギが倒伏した場合も丁寧に起こし、軟白部が曲がるのを防ぐ。

ク 育苗中や生育中の果菜類などでは、台風通過後に天気が急激に回復すると、ハウス内が高温となるので、天窓やサイド換気を速やかに行う。また、遮光ネットを利用して、強光による葉焼けを防止する。

ケ 収穫した野菜は、傷み等がないかよく確認しながら調製作業を行い、流通中に発生する荷傷みや腐敗の発生防止に努める。

5 果樹

(1) 事前対策

ア 多目的防災網や防風ネットの緩んでいるワイヤーやひもは張り直し、ネットがずれたり、飛ばされないように補強する。また、ネットが破れている部分を補修する。

イ トレリスは、隅柱や中柱の横ぶれ、架線の張り等を点検し、必要に応じて締めなおす。

ウ ブドウやオウトウなどの雨除け施設は、ビニールが飛ばされないように補強するか、場合によっては除去する。

エ 幼木やわい性台リンゴ樹は、支柱や添え木を点検し、不備な場合は支柱や縄（ひも）を取り替えるなど補強を行う。

オ 高接ぎした樹では、接いだ部分から折れやすいので添え木をする。

カ 園内に水が溜まらないように排水溝を掘るなど、十分な排水対策を行う。

キ ウメなど収穫が可能な品目については、台風接近前に収穫しておく。

(2) 事後対策

ア 果実のすり傷、葉の裂傷等から病害発生のおそれがある場合は、速やかに適用薬剤を散布する。なお、農薬散布にあたっては使用基準、特に収穫前日数を必ず確認する。

イ 浸水、滞水している園では、速やかに排水溝を掘るなど排水に努める。

- ウ 倒伏や傾いた樹であっても、回復可能なものは出来るだけ早く起こし、盛土、支柱で固定するとともに、地下部とのバランスをとるために適宜枝の切りつめを行う。
- エ 枝が裂けた場合は、針金、ボルト等で固定する。回復不能な場合は切り落とし、切り口に塗布剤を塗る。
- オ 枝の損傷や落葉が甚だしい樹では、果実肥大や品質が低下するので、再度着果数の見直しを行う。
- カ 仕上げ摘果は、果実の傷や損傷程度が明らかになってから行う。なお、軽度な傷果は、樹勢バランスを考慮して残し、極端に強い摘果は避ける。
- キ 樹勢回復のための追肥は、二次伸長、不時開花を防ぐために被害直後には行わず、礼肥の時期となってから樹勢に応じて施用する。

6 花 き

(1) 事前対策

- ア ハウスの被覆資材など傷んでいる箇所は、風雨が吹き込まないように修復しておく。また、ゆるんでいるマイカー線の張り直しや基礎の杭等の補強を行う。
- イ 湿害の発生しやすいほ場では、周囲に排水溝を設け、速やかに排水できるようにしておく。また、ハウス内に雨水が流入しないように、土のう積み等の防水対策を図る。
- ウ 倒伏しやすいキク等の切り花では、十分に土寄せを行うとともに、フラワーネットや支柱を補強しておく。

(2) 事後対策

- ア 冠水、浸水したほ場では、速やかな排水に努めるとともに、肥培管理を的確に行い生育の回復を図る。
- イ ハウスや支柱等栽培施設を点検して、損傷箇所があれば早めに補修する。キクなどの電照施設においては、速やかに作動状況の点検を行い、電照処理等が確実に行われるよう確認する。
- ウ 茎葉に付着した土砂は動力噴霧機等で洗い流し、生育促進を図る。
- エ 切り花類等で株元が土砂で埋まって深植え状態になったものは、早期に土砂を取り除き天候の回復を待つ。浅く中耕する。
- オ 切り花類の倒伏したものは、できるだけ早く起こし、茎や花穂の曲がりを防ぐ。
- カ 枝物類・切り花類では、強風によって折損した茎葉の整理と薬剤散布を的確に行い、病害の発生を防止する。
- キ 台風通過後は吹き返しの強風に充分注意する。
- ク ハウス施設では、台風通過後に天気が急激に回復すると、ハウス内が高温となるので、天窓やサイド換気を速やかに行う。また、遮光ネットの利用などにより強光による葉焼けやしおれを防止する。

7 畜 産

(1) 飼料作物

ア 事前対策

草地や飼料畑に水や土砂が流入する恐れがある場合は、浸水防止や排水対策を実施する。

飼料イネ・飼料用米については、水稻の項を参照。

イ 事後対策

(ア) 飼料用トウモロコシ

水田に栽培している場合は、排水対策が重要となる。降雨のためほ場に滞水してい

る場合は、速やかに排水溝を設けて排水を行い、湿害による生育不良を最小限に食い止める。

(イ) ソルガム

水田に栽培している場合は、排水対策を徹底する。ほ場に滞水した場合は、排水溝を設けて速やかに排水する。

(ウ) 牧草類

台風の風による被害は比較的少ないものと考えられるが、生育が進み草丈が伸びているものは倒伏が心配される。この場合は速やかに刈り取りを行い、品質を見ながら利用する。

(2) 畜舎及び付属施設等

ア 事前対策

(ア) 畜舎の風雨被害を防止するため、屋根や窓、入り口の点検を行い、必要があれば補修や補強等を実施する。雨や風が畜舎内に吹き込まないように戸締まりを行う。

(イ) 堆肥舎やハウスかく拌処理施設への風雨被害を防止するため、施設の事前点検を実施し、窓や入り口は戸締まりを行う。雨水の施設内流入や尿汚水が流出しないよう施設及び堆肥の管理を行う。

(ウ) 飼料庫、農業機械・器具格納庫

風雨被害を防止するため点検を行い、必要があれば補修や補強を実施する。飼料、農業機械・器具は雨にさらされないよう管理する。

イ 事後対策

雨が畜舎内に吹き込んだ場合は、敷料等の交換を行って畜舎内を乾燥状態に保つ。

8 養 蚕

(1) 事前対策

簡易ハウス等は補強を行い、台風被害を未然に防ぐ。

(2) 事後対策

ア 浸水、冠水の被害を受けたほ場は、速やかに排水を図るとともに、病害虫の異常発生に注意し、防除に努める。

イ 桑葉が損傷した場合は、葉質が劣化しやすいため、貯桑管理に注意し、給桑回数を増やす。

ウ 壮蚕飼育にあたっては、適正な蚕座面積、除湿、通風換気に注意し、蚕座内環境の向上に努める。

9 作業者の暑熱対策

(1) 高温による影響

熱中症は以下のような症状を段階的に呈する。

分類	症 状	対 応
I 度	<ul style="list-style-type: none"> ● めまい、失神 「立ちくらみ」の状態（熱失神とも呼ぶ）。 ● 筋肉痛、筋肉の硬直 筋肉の「こむら返り」のことで、その部分の痛みを伴う。 ● 大量の発汗 	<ul style="list-style-type: none"> ● すぐに涼しい場所へ移り体を冷やし、水分を与える。 ● 誰かがそばに付き添って見守り、改善しない場合や悪化する場合は病院へ搬送する。
II 度	<ul style="list-style-type: none"> ● 頭痛、気分の不快、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感、体がぐったりする、力が入らないなど。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分で水分・塩分を摂れないときは、すぐに病院へ搬送する。
III 度	<ul style="list-style-type: none"> ● 意識障害、けいれん、手足の運動障害 呼び掛けや刺激への反応がおかしい、体にガクガクと引きつけがある、まっすぐに歩けないなど。 ● 高体温 体に触ると熱いという感触。 	<ul style="list-style-type: none"> ● すぐに病院へ搬送する。

(2) 高温時の対策

ア 「新しい生活様式」における熱中症予防として、屋外で人と十分な距離（2メートル以上）を確保できる場合は、適宜マスクをはずす。

イ 日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする工夫を行う。

ウ 水分をこまめに取り、汗で失われた水分を十分に補給する。大量の発汗がある場合は水分だけでなく、スポーツ飲料などの塩分濃度 0.1 ～ 0.2% 程度の水分摂取をする。

エ 帽子の着用や汗を発散しやすい服装にする。

オ 作業場所には日よけを設け、できるだけ日陰で作業するように努める。

カ 屋内の作業では、遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が急激に上昇しないようこころがけるとともに、風通しをよくし、室内の換気に努める。

キ 気温の状況に応じ、適度に扇風機やエアコンを使用する。

ク 一人作業は極力避ける。やむを得ない場合は、家族や周囲の人に作業予定を伝えておく。

※ 農林水産省ホームページ（農作業安全対策）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/

※ 環境省熱中症予防情報サイト（熱中症環境保健マニュアル）

https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_manual.php

10 落雷による被害の回避

雷鳴が聞こえるなど雷雲が近づく様子があるときは、落雷が差し迫っているので、速やかに安全な場所へ避難する等、雷から身を守る対策をとる。

(1) 安全な場所への避難

畑などの開けた場所や尾根などの高いところなどは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難する。

鉄筋コンクリート建築、自動車（オープンカーは不可）の内部は比較的安全な空間である。また、木造建築の内部も基本的には安全であるが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離れれば更に安全となる。

(2) 近くに安全な空間が無い場合

電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ（保護範囲）に退避する。

〈注〉 避雷設備のないあずま屋（屋根と柱だけで壁のない建物）や掘建て小屋、テント内、高い木の近くは、かなり危険！

※ 気象庁ホームページ（落雷から身を守るためには）

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/toppuu/thunder4-3.html>